実施要領　様式5（第7条第2号関係）

自己評価票

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営				
1．理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念として「寄り添う心」、「普通の暮らしが生きる心地よさ」を掲げ、常に念頭に置き、取り組んでいる。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	会議の時に理念を全職員に周知させている。職員には理念の意味を理解できるように説明し、日々のサービス提供場面に反映させる様に話している。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	事業所玄関に利用者や家族等が見やすくわかりやすいように理念を掲示し、事業所利用時には、理念を利用者や家族等に説明している。		
2．地域との支えあい				
4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	行事を通じ、地域住民の方々やボランティアと交流している、見学や認知症に関する相談、実習生、ボランティア等の受け入れを行い理解して貰えるようとりくんでいる。		

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3．理念を実践するための制度の理解と活用				
5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者や管理者は評価のねらいや活用方法等を全職員に周知できるように、昨年の結果を閲覧できるようにし、会議等で話し合っている。		
6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では利用者、地域包括職員にサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、意見を聞き、できる事は､実施している。		
7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	青森市介護保険課には、苑の実態等を理解してもらうために外部評価の結果や、運営推進会議の議事録を提出し、報告を行っている。更に、民生委員の方に行事などに来て頂き、苑の実情を見て頂いている。		
8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者、職員は権利擁護や成年後見制度の概要について聞いているが､内容を正確に把握出来ていない。	○	今後学習会を開催して知識の定着を図って行きたい
9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	管理者は職員の日々のケアの提供場面を観察する等虐待を未然に防ぐよう努めている。内部研修を通じて高齢者虐待防止関連法について学習し、日々の介護で問題が発生した時は速やかに管理者等と相談し解決するよう努めている。		

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4．理念を実践するための体制				
10	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は利用者や家族等に、事業所の理念等ケアの方針や取り組み等について説明している。契約時は利用者や家族等の疑問や意見を引き出す働きかけを行っている。契約を改訂する際には、利用者や家族等に十分に説明を行い、同意を得ている。退居の際には契約に基づき、利用者や家族等に十分に説明を行い、同意を得ている。退居の際には、利用者や家族等に不安を生じさせないよう、退居先の情報提供を行う等の支援を行っている。		
11	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者は職員や利用者の意見や苦情を出しやすいよう働きかけている。出された意見や苦情等を速やかに対応する体制を整備し、良い事業所運営に活かしている。		
12	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の暮らしぶりについて家族の面会ごとに報告し、利用者の金銭管理の状況について出納帳等に記録し、領収書を添付し報告している。毎月の利用料請求書送付の際に健康管理情報や普段の生活風景の写真、行事の写真を同封し、連絡している。		
13	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等が意見や要望などを話しやすい雰囲気作りを行っており、事業所内の苦情受付窓口を明示している。苦情受付窓口は継続的に家族等に周知している面会時は職員が玄関まで見送りし家族等から要望、意見が無いか聞き、日々のケアサービスに反映させていくように努めている。		
14	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議及び全体会議に業務中の疑問、質問、提案などを聞き、納得するまで話し合いをして、決まった内容はすぐ実行する様にしている。		
15	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者本位の暮らしを支援できる人員配置をし、利用者様の状態変化に対応できる体制を整えている。職員の急な休みには他の職員の了解を得て、休みを交換するなど臨機に対応している。		

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	担当職員の交代による利用者への影響を考え、異動は必要最小限にしている。担当職員の異動の際は新しく担当する職員に詳細に引き継ぎを行っている。新しい職員を配置する際には利用者に説明している。		
5．人材の育成と支援				
17	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の研修計画は作成していないが、必要に応じて研修を受けられるように配慮しており、個々の力量や経験に応じた研修を平均的に受講させている。研修受講後は報告書を作成している。研修受講の際は勤務体制等に配慮している。		
18	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のホームと合同で行事を行い、グループホームの相互評価を行い、地域包括支援センターの会議等に出席し交流を図っており、また、青東地区グループホーム協会に加入し、研修等に出席し交流を図っている。		
19	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる	日常的に管理者が職員の悩みや、職員の意見を聞きながら、休憩時間を確保するよう配慮している。定期的に経営者との個人面談を設けて、要望を話しやすい雰囲気を作っている。		
20	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	管理者は現場の状況のほか、職員の日々の努力や勤務状況等を把握し、健康診断の実施等、職員の心身の健康を保つための体制を整えている。運営者は保有資格を活かした職員配置とする等、職員のやりがいや向上心が持てる職場環境となるよう配慮している。		

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
21	○初期に築く本人、家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	サービス利用の相談があった時には、利用希望者や家族と面談する等、直接話しを聞く機会を設けている。利用希望者の身体状況や思い、希望等を把握し家族の思いや希望を把握するよう努め、安心感を持てるようにしている。		
22	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に利用者の希望や家族の希望に対して、何が必要かを見極めて、苑ですぐに対応できないことに対しては、必要に応じて地域包括支援センター等の関係機関との連携を図っている。		
23	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者が安心してサービスを利用できるよう、家族等双方の意向に沿ったサービス開始となるように調整し、職員間でも情報を密にして対応出来るようにしている。		
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
24	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者と会話を多く持ち、残存機能を生かして出来る事をやりたい時に職員と一緒に行って貰えるような場を作るように努めている。		

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	職員は利用者の様子を家族に随時報告する事により利用者の思いや気づきを家族と共有する等の取り組みにより利用者を共に支える関係を作るよう努めている。		
26	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族との関係が途切れないよう、日々の利用者の様子を面会時や電話、健康管理情報等により伝え、家族がホームに来やすいよう働きかけを行っている。		
27	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様の馴染みの人や馴染みの場所等を利用者様との会話から把握し、その場所等に出かけられるよう支援している。		
28	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士が共に助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解して頂き、利用者同士の人間関係をきめ細かく把握し、孤立しないように配慮している。		
29	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	常に家族の相談に応じる体制を作り、次への場所が決まるまでの援助を行っている。		

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント **1. 一人ひとりの把握**				
30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は利用者の思いや希望、意向を把握するよう努め会議で情報を共有している。必要に応じて家族や関係者等から情報収集を行っている。		
31	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者の生活歴やライフスタイル、個性、価値観等を出来る限り把握している。これまでの地域との関わりや利用してきたサービスを把握し利用者の背景に関する情報の大切さを家族に伝えるとともに、利用者の生活歴等について家族から情報収集を行っている。		
32	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者の一日の暮らし方や生活リズム（食事や睡眠、排泄の時間、生活習慣、一日の中でどのような体調変化があるか等）を把握し記録している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	介護計画作成時には、利用者がその人らしく暮らし続けることができるために、可能な限り利用者の意見、家族からの情報を聞くよう努めている。毎月の会議で介護計画を話し合っており、利用者本位の個別具体的なものとなっている。		
34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の実施期間を明示している。実施期間終了後は見直しを行っている。実施期間に関わらず、利用者の身体状況の変化や利用者や家族等の希望の変化時には随時見直しを行っている。		

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
35	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一人ひとりについて、日々の暮らしの様子や身体状況等について具体的に記録している。記録の内容を全職員が共有することが出来る仕組みを整えており、会議に活用している。記録には計画にそって実践したか、実践した結果がどうなったか等について記載している。		
3．多機能性を活かした柔軟な支援				
36	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	グループホームの敷地内に宅老所も有り、利用者様の必要とする介護資源に合わせて利用出来るように柔軟な支援に努めている。		
4．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
37	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	利用者がより安心して暮らせるために、民生委員、警察署や消防分団等からの協力が得られるよう働きかけを行っている。		
38	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	地域包括支援センターの会合に参加し、利用者様の意向を反映できる事が無いか意見交換し、出来ることは、支援を求めている。		
39	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターと長期的なケアマネジメント等について相談しながら、関係機関との協力体制の構築に努めている。		

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
40	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の中部クリニックは月2回の往診が有り、夜間休日は協立病院と連携を図り、必要に応じて電話での相談をして対応している。出来る限り本人の希望、家族の希望に合わせた病院に通院している。		
41	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症の人の医療に熱心な医師に、その都度相談し指示や助言を受け、常に連携して支援している。		
42	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護師の職員を採用し、利用者の健康状態を把握し、相談等も行える体制を作り、必要時は訪問看護を受けるなどの支援をしている。		
43	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院した際は病院の相談員や医師、看護婦と連携を取りつつ、職員が面会に行き、状況を把握しながら、早期退院に向けて話し合っている。		
44	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者の重度化や終末期の対応については、随時職員の緊急会議を開き、ケアの統一化を図り、苑で出来るだけの取り組みを行い、随時医師と相談しながら行っている		
45	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	苑として出来るベストのケアを職員全員が取り組み、医師と常に連携しながら、支援している。		

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
46	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	利用者のダメージを最小限にするために家族等の協力を得ながら、引き継ぐ関係者へ情報提供し働きかけを行っている。		
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 **1. その人らしい暮らしの支援** (1) 一人ひとりの尊重				
47	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者様の人格の尊重、言葉がけへの配慮を行い、常に利用者様が笑顔で過ごせるように配慮している。記録等は実名ではなく、イニシャルなどを使用し、個人情報の取扱いには最新の注意を払っている		
48	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者様の訴えや要望を傾聴し、要望に対して対応できるかどうか職員間で相談し、出来ることは速やかに対応し、出来ない事は、利用者様と話し合い、納得して頂ける様に心がけている。		
49	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様が中心であり、利用者様のペースに合わせてを暮らしていけるよう、業務内容を変更している一人ひとりのペースに合わせて柔軟に対応し、必要に応じて別ユニットの職員にも協力を求めている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
50	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	一人ひとりの希望に合わせ、家族と外出を兼ねて美容院を利用したり、馴染みの場所に立ち寄ったりして利用者様の希望を叶えるようにしている。		

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
51	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	自宅での様子を聞き、職員と一緒に出来る範囲で調理や準備後片付けをして頂き、職員も入居者と同じ食事を一緒に楽しんで食べながら、苦手な献立の時は、代替えの物を提供し支援している。楽しく食事が出来るよう雰囲気作り(環境作り)に努めている		
52	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	一人ひとりの嗜好品を把握し、(硬さ、柔らかさ、甘さ、しょっぱさ等)入居者の状態に配慮しながら、白い御飯か混ぜ御飯かは本人に選択出来るように対応している。		
53	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を活用し、一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレ誘導にて排泄の失敗を防ぎ、気持ち良く排泄出来るよう支援している。トイレ誘導の拒否が有る場合は無理の無いように配慮し、おむつをできる限り使用しないよう、自立に向けた支援を行っている。		
54	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者様の希望、健康状態に合わせ、入浴を実施している。更にいつでも入浴が楽しめるよう別ユニットと協力し支援している。		
55	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人ひとりの睡眠パターンを把握し、日中活動を促し生活リズムを整えている。リビングの他に廊下にソファーを置き休憩や談話の場所として活用し、環境作りに取り組んでいる。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
56	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者様の身体状況に合わせ役割分担(食器洗い、おかずの盛り付け、掃除等)の支援を行っている。一人ひとりの趣味や特技を把握し、生活のメリハリを持てるように、援助を行っている。		

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人の意向を尊重し、社会性を保つ為に自由な買い物を支援している。家族の了解の下、小遣いを持っている利用者様には毎日確認し、紛失などにすぐ対応出来る体制を作っている。		
58	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	苑内だけで過ごさずに、積極的に近所に外出できる機会を作り、楽しい生活作りに努めている。		
59	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	一人ひとりの希望等把握し、花見や遠足などの行事ねぶた観覧になどに参加する事で気分転換を図って貰えるよう取り組み、行事には家族の参加も勧めている。		
60	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が希望した時は家族へ電話を掛ける支援をし、本人の希望により手紙の代筆などの、援助を行っている。		
61	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族友人等が気軽にいつでも訪問でき、面会時に日々の様子等を伝えたり、お茶を提供し居心地よく過ごして頂けるよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援				
62	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が身体拘束について正しく認識する為に会議や園内研修を通して学習し、身体拘束のないケアを実施している。		

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
63	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	各居室、玄関には日中施錠せず。夜間時は防犯の為に玄関のみ施錠を行っている。		
64	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	昼夜問わず、利用者様が自由な時間を過ごせる様に目配りの支援を行っている。更に安全な生活を確保出来る様に取り組んでいる。		
65	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	全職員が取り決めに基づいて実践している。薬や洗剤、刃物等の注意の必要な物品については、一人ひとりの状態に応じて、保管場所、管理方法を明確に取り決め実行している。		
66	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	転倒時の対応マニュアルを作成し、事故が起きた時すぐ対応が出来るように取り組んでいる。危機察知能力を高めるよう努力し、事故防止に取り組んでいる。		
67	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変時のマニュアルを作成し、どんな時でも対応出来る様に取り組んでおり、職員は、救急の講習会に参加し、勉強している。		
68	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防訓練、緊急連絡訓練、設備点検を行い、災害時に適切な対応が出来るように取り組んでいる。	○	今後は日中だけではなく、夜間想定した避難訓練を実施したいと考えている。

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
69	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	一人ひとり起こり得るリスクを把握し、その対策を入所時家族等に説明している。起こり得るリスクや対応策について、利用者の状態変化等に応じて適宜職員間で話し合い、見直しを行っている。	○	今後リスクに関して色々な場面を想定した対応策について、家族と共に話し合って行きたい
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
70	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	朝と晩に血圧、検温を行い体調の変化、会話の変化などに気を配り、必要時は各職員に連絡し対応の統一化や情報の共有を図っている。		
71	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬の目的や副作用、用法等を把握し、飲み忘れや誤薬がないよう、確認している。薬の変更時は全職員に周知している。服用による状態変化は記録に残すとともに、かかりつけ医師に報告、相談している。		
72	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	全員の排便確認を毎日行い、牛乳、ヤクルト等の飲用を勧め、軽体操や散歩を行うよう声掛けしているかかりつけ医師と相談しながら、便秘の対応をしている。		
73	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	義歯の方には、本人同意の下、夜間時に洗浄剤で洗浄し、口腔状態の管理を行っている。口腔疾患が有った場合、随時相談し受診する様予定を組んでいる。		
74	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が作成しているメニューにより、栄養バランスなどが確保されている。水分補給できる様におやつ、食事の時にお茶やココア、ジュース等を提供し談話中にも提供し、飲んで頂いている。		

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症マニュアルを作成し、感染者が出た場合の対応が確保されている。共有の場(トイレ)共有物(おしぼり)などは、漂白剤を使用し殺菌している感染症の発生時には家族等に注意事項等を周知する体制も整えている。		
76	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	台所や調理器具等の清潔を保持するための具体的なマニュアルを作成し、それに基づいて実行し洗面台には、手洗いの仕方のポスターを貼り励行している。		
2．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり				
77	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	入居者や家族が入りやすく、近隣の住民も訪ねやすいよう、玄関に花などを置き園庭には家庭菜園を作り、家庭的な雰囲気作りを行っている。		
78	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の生活空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、いずれも家庭的な雰囲気を有しており、リビングの壁を利用し、四季に合わせた飾り付けをして、楽しんで頂いている。		
79	○共用空間における居場所づくり 共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間は、ソファー等の家具が設置されており、いつでも誰でも自由に利用できる環境づくりに取り組んでいる。		

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
80	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族に使い慣れたものを持ち込んでもらうように働きかけており、衣装ケースや寝具等の使い慣れた生活用品や、家族の写真や位牌等の思い出の品が持ち込まれ、安心して過ごせる場所となっている。		
81	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	適宜窓を開けたり、換気扇を使用して換気を行っており、気になる臭いや空気のよどみはない。居間に温度計を設置しており、おおよその目安を立てて適切な温度調節を行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
82	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の安全を考慮し、要所に手すり等の福祉用具を設置している。利用者の活動性を維持するために、必要に応じて車椅子等を用意している。		
83	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	職員は入居者の場所間違いの状況を把握している。居室前には、入居者や家族の同意を得た上で、名前を掲示している。また、特に間違いやすい入居者様にトイレ等解りやすい表示をしている。		
84	○建物の活用 建物を利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	各行事の写真や利用者様の作成した作品を廊下などに展示し見て頂き、別ユニットへ散歩し展示物を楽しみ、行事の写真を見て楽しく過ごして頂く工夫をしている。		

（　　部分は外部評価との共通評価項目です　）

Ⅴ．サービスの成果に関する項目

項　目		取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	
85	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
86	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
87	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
88	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
89	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
90	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
93	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項　目		取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	
94	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
95	職員は、活き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
96	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
97	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

普通の暮らしをして頂く為に外出を多くし、生活に豊かさを持たせていき、毎月「のじり苑新聞」を発行し、家族に送り喜んで頂いている。ブログをインターネットに掲載し、毎日更新して情報提供しています。